

# 平成4年度 和歌山県文化賞

## なか がみ けん じ 中 上 健 次

住 所：東京都府中市

出 身 地：和歌山県新宮市

生 年：昭和21年

### ◎業績及び経歴

昭和40年県立新宮高等学校卒業後、上京し同人誌「文芸首都」等での文筆活動に入る。

昭和48年、「19才の地図」を文芸に発表、第69回芥川賞候補となった。その後昭和50年出身地の新宮市と思われる町を舞台に画いた「岬」で第74回芥川賞を戦後生まれで初めて受賞した。

熊野文化へのこだわりをもち、「熊野は心の復活の地」ということを踏まえ、「世界の中の熊野」として理想郷づくり、まちづくりを展開、平成2年には「熊野大学」を開講させ、和歌山県の文化の発展、振興に大きく貢献した。

氏は、日本人作家では、その翻訳が世界各地で数多く出版されている文壇のホープとして活躍され、その著書には、「岬」のほか、「枯木灘」「紀州木の国・根の国物語」「鳳仙花」「地の果て至上の時」「火のまつり」「千年の愉楽」「日輪の翼」「奇蹟」「讃歌」「軽蔑」などがあり、本県出身の日本を代表する作家として、執筆活動を続けるかたわら地域の活動にも尽力された。

### ■主な表彰歴

昭和51年 第74回芥川賞

昭和51年 和歌山県文化奨励賞

昭和52年 第31回毎日出版文化賞

昭和53年 昭和52年度芸術選奨文学部門  
文部大臣新人賞